

其幹株は、割合わりあひに小にして、長二尺に過ぐるもの稀まれなり。左方近く峙たててるを、石尊山となす。緑衣の綻ほころひし所山骨稜々たるを見る。凡そ淺間の山は、半腹以上殆んど樹木を見ず。唯火山砂礫中、矮生虎杖の散點せるあるのみ。愈登れば砂礫愈小なり、峻峻げんげん愈加はる。殊に危険なるは前者の歩行によりて、轉落せる岩塊の、加速動を起すにあり。故に一行成るべく密集し、且つ斜行進をなすを要す。富士の登り道は、概ね固定せる岩角を踏む所多けれども、淺間は砂礫簇々足掛りなく、尺進寸退ならば、猶可なれども、時には尺進尺退、従つて時間を費し、疲勞を免れず。七八合以上は、道の形とはなく、急峻益甚しく、山を背にして腰を地に掛け懸ふことすら叶はぬ程なり。途中往々巨石の占居するを見る。是れ前掛山の熔岩崩壊墜落せしものなり。我等は前掛山の岩壁南角を目差しつゝ進む、壁根細美なる火山砂あるを見、直ちに用意の紙袋を取出し、之を採取し右折して稍進めば、傾斜漸く緩となり、岩塊亦大を加へ、火山灰之を蔽ひ、歩行大に易く、十一時二十分、頂上に達す。乃ち皆現火口を距ること十數間の處に於て、灰上に箕座し、休憩するこ

と十數分忽ち轟然たる地下の鳴動と共に、黒煙噴口より上騰し、數秒にして豆大の砂礫降り來りて、笠殆んど破れんとし、大豆大の砂礫は、漸次小豆大となり、粟大となり、遂に細灰の密降となれり、此意外なる制烈の噴狀に逢ひ衆皆愕然慄然たり。同座中、倉皇蹶起逃げ去るあり。他も亦之に倣ひ、三人五人走れり匍へり。蓋し本山は、當時に於ても半腹に至れば、轟々たる噴聲を聞き、濃煙幾條天を衝て昇る。故に氣弱きものは既に膽を奪はる。疑心暗鬼どころが、悚心活地獄に接す、能く探險するもの尠し。殊に硫氣瀰漫、咽喉を刺戟し、咳嗽を發す。後聞けば當時の劇噴は、追分驛に於て轟響を聞き、夥しき黒煙を認めたりと云へり。此千歳一過の劇噴こそ予に取りては、意外の仕合せなれ。本山は、平時噴勢に多少の強弱あり。従て騰煙も亦多少あれど、噴氣常に立ち籠めて、火口に近づくこと難く、強いて近づくあるも、煙色の爲に、火口底を窺ひ視るべからず。然るに、此劇噴數十分の後は、珍らしくも靜穩となり、且つ此日は、幸に屋伯亦休息し少量なる煙は、直眞ちよくしんに立ち昇りしを以て、火口縁を左より一周し、安全の處を選

び、被灰を拂ひ、縁壁岩角を碎き採り、記念物となし、口底を視得る便宜に箕座し、火山活動の眞味を探るべく待ち構へたり。騰煙は益減少稀薄となり、冒眇の中微に其口底なるかを認め得るが如し、乃ち雙眼鏡を以て之を窺ふに、果して底部なり。之を熟視するに、底部は猶富士火口底部の如く、漸次口壁壞墜の爲め塞がりしものゝ如く、底中更に數多の噴氣孔を見る。其大なるものゝ、西北隅に四孔弧列し、南に一大孔あり。各孔噴煙の色同じからず。西北隅の四孔中、最西のものは、白色、次は黒色、次は暗赭色、次は黄赭色にして、南の大孔は、暗黒色とす。各孔の噴勢、時に強弱あり、或は同時に或は異時に、噴煙し、同一孔中よりの煙色、亦時により多少の變更あり。噴騰せられし岩塊砂礫の墜下して、孔上に至るや、復た噴き騰けられ、騰りては墜ち、墜ちては騰り恰も湧泉の沙石循環せしむる如く、口壁に反響して、其音轟々然たり。其壯觀烈狀、得て名狀すべからず。五個大噴孔の他、小なる噴孔に至りては、擧げて數ふべからず、或は底部に、或は側壁に、口縁に、時には足下、不意に噴煙に遭ひ、一驚を喫することな

きにあらず。忽然として噴き、忽然として止む火の奇、火山の美、亦極まれりと謂ふ可し。口壁峻峭、削るが如く或は往々缺窠をなすあり。假令噴煙せざること、富士の如くならしむるも、到底降る得べからず。予試みに、徑尺の岩石を投ぜしに、加速動を以て墜下し、其衝突する所、脆壁は、粉碎し、硬壁には反擲せられ、猛勢警ふるに物なく尺徑は忽ち寸徑となり、分徑となり、未だ底部に達せずして、視角既に微小なり、認むること能はず。想ふに、富士火口に比すれば、其深さ少くも、五倍以上ならんか。此日山上は晴天なりしが、下界は雲霧の鎖す所となり、唯南方遙に甲州境上の八ヶ嶽を望み、又西北越後、越中の國界に於ける高峰の、僅かに白雲海上に其冠を現はすあるのみ。雲霧斷絶の間本山の麓に並列せる。青赤三池の異色、歴然眼底に映ぜしは、頗る美景なりし。淺間山上は別に石室等の、宿泊に供すべきものなし。故に赤瀧の傍にある巖洞にて、暴風雨を避け、頂上前掛山の壁下、僅かに露營をなすを得べし。赤瀧巖洞は、濕氣甚だしければ、宿泊には不可なり。』

▲田中驛で下車して、唐澤温泉へゆき(四里)そこから淺間登山をするも面白い。「鬼の押し出し」と云ふ熔岩流の壯觀も一見の價値はある。

靈泉寺温泉

大屋驛(上野驛より二圓四十七錢)の西南四里。丸子鐵道で丸子町迄ゆく。丸子町から靈泉寺間三里(俵賃一圓五十錢、馬車賃四十錢)海拔二千五百尺の高所、無色透明の鹽類泉で、火傷、疝氣、胃腸病、脚氣に効がある。附近には氷穴、城山、月見堂、稚兒ヶ淵等がある。旅館はおもだかや、今井屋、和泉屋、(宿泊料一圓以上)

鹿教湯温泉

丸子町迄は、靈泉寺へゆくのと同じである。丸子町から鹿教湯迄俵賃二圓。(馬車賃五十錢)

四面に山岳をめぐらし鹿教湯川に臨み別天地をなして居る。無色透明の鹽類泉で、中風、リユーマチス、腦病に効がある。旅館齋藤旅館、中村屋、龜屋、其他、(宿泊料は一圓、自炊制が主である。)

別所温泉

上田驛(上野驛より二圓五十七錢)から西南二里二十四町。(俵賃九十錢、自動車賃八十錢)海拔千八百六十尺。山水の風景に富んでゐる。硫黄泉で、リユーマチス、神經痛、婦人病に効がある。旅館柏屋、柏屋別館、鶴屋、中村屋其他(宿泊料一圓五十錢以上、自炊制が多い。)

沓掛温泉

上田驛より西四里一町。上田青木間人力車(九十錢)馬車(三十錢)青木沓掛間は二人

曳人力でゆける。(一圓)

小倉山の中腹海拔千八百尺、浦野川に臨み、風光頗る美である。無色透明の炭酸泉で、瘡毒、淋病、皮膚病に効がある。旅館おもと屋、角屋、叶屋、山浦等。(宿泊料一圓五十錢以上自炊制が主である。)

田澤温泉

上田驛より西四里。上田青木間は、杳掛温泉と同じである。青木から田澤迄十八町。(俵賃三十錢)子壇弓岳の南麓二千尺で、風光頗るよい。鹽類泉で、神経痛、皮膚病、火傷に効がある。旅館ます屋、たまり屋、ふぢ屋、いづみ屋等。(宿泊料一圓五十錢以上、自炊制が主である。)

戸倉温泉

戸倉驛(上野驛より二圓七十三錢)の西南十五町。冠着山の東麓、千曲川の清流に臨んでゐる。硫黄泉で、脚氣、消化器病、皮膚病に効がある。旅館戸倉ホテル、笹屋、ホテル鶴屋、向島屋等(笹屋を除いては自炊制である)

上山田温泉

戸倉驛の西南十五町(俵賃二十五錢)千曲川を隔て、戸倉温泉と相對してをる。泉質効能共に、戸倉温泉と同じである。旅館三好屋、龜屋、ネヅミ屋、更級屋等(宿泊料一圓以上。自炊制が主である。)

川中島古戰場

川中島驛(上野驛より二圓八十八錢)附近一帯の地が古戰場である。

(イ)諸角豊後守の墓

東二十五町

(ロ)八幡原甲越兩將直戰地

東一里二町

(ハ)武田信繁の墓

東一里十五町

新選名勝地誌

川中島古戰場 更級郡の東北に隅し、千曲、犀兩川の合湊する所にあり。古へは埴科、更級、水内、高井の四郡に亘りしを以て川中島四郡と稱し、今は更級郡青木島、眞島、西寺尾等の諸村に屬す、永祿四年九月九日武田晴信、上杉輝虎と激戰せしより地名大に著はれ、猶ほ來りてこの古戰場を弔ふもの多し。史に曰く、天文十六年武田信玄兵を信濃に進めて村上義清と上田原に戰つてこれを破る。即ち義清越後に追はれて同國の雄將上杉謙信に投ず。これより甲、越の兵結んで解けず。所謂川中島の戰爭は今猶兒童走卒の話題に上るところなり。而して、この役に關しては諸書多く修飾に過ぎて事實を誤れるもの多く、田中博士は兩雄が實際この地に會戰したるは、弘治元年、永祿四年の兩度のみにて、この役に附隨せる故談舊説の類概ね妄誕取るに足らずとせり。また井出道貞

日「甲陽軍鑑武田三代記等に甲州勢川中島に押出し、犀川より一里東の方三枚畑越後の引口に備ふとあるは非なり。三枚畑は大塚にありて場所大に相違せり。その時の戰は東福寺、中澤より始まり、荒堀、杵淵、水澤のほとり大戰にてそれより八幡原、陣場原わけて烈しき戰ひなり。陣場原は中氷鉤にて八幡原より十七八町なり云々」また武田信繁の墳は西寺尾村字水澤の曲厩寺境内にあり。今さゝやかなる五輪の塔を残すのみ。寺も武田家の菩提所とは名のみにて廢殘久しかりしを元和年間眞田氏これを修理して今の名に改めしとのことなり。今、明治四十二年土地の有志者協力して、甲越信三國の石材を以てせる一大記念碑を同寺庭園内に建つ。海莊「龍戰虎鬪無暫休、越軍甲兵互結仇、自古兩雄不並立、至今二水交爭流、雲封殘壘蛟蛇走、秋冷荒祠風雨愁、唯有興亡長不管、青花洲畔一眠鷗」云々。

善光寺

長野驛（上野驛より八時間二十分二圓九十三錢）の北十九町、大峰山の麓にある。海内屈指の靈刹である。

坪谷氏日本漫遊案内云ふ。

善光寺 長野市の繁昌は、此の靈刹あるが爲にて、寺の繁昌するは、本尊に一光三佛と稱せらるゝ閻浮檀金の阿彌陀如來、一尺五寸の靈像あるが爲なり。其の緣起に由れば、人皇三十代欽明天皇の朝、百濟國の獻納する所、後に物部守屋、中臣勝臣等の爲に難波の堀江に投ぜられしを、推古帝の朝、信濃の人、本田善光水中より拾ひ上げて本國に奉じ、一字の小堂を建立して安置したるもの、即ち今の長野市の善光寺の濫觴なりと。

方今寺域東西四百四十七間、南北九十四間、面積一萬五千三百餘坪、南に正門あり、門を入れば、正面に山門あり。左の大本願は東西四十二間、南北六十二間の巨刹、紫衣の尼寺にして、代々皇孫又は華族の女性之に住職たり。右方は末派の寺院叢を並べ、山門は其の正面にあり。二重の樓門、高さ六丈六尺、桁行十間、樓上に文珠四天王を安置し

山門の内に巍然として聳ゆるものは、則ち本堂にて、高さ十丈、二重屋根、鐘木造り、柱の數百三十六本、垂木の數六萬本、四方に階段を設けて參詣者の昇降に便す。外陣に疊百疊を敷き、參詣の貴賤は皆な此所にて禮拜するなり。正面板敷の間に大香爐を置き其中央一段高き所を内陣と云ひ、東方に本田善光、妻彌生、長子善佐の三像を置き、西の方庇の間に本尊阿彌陀如來を安置し、厨子の前に錦繡の戸帳を垂れ、一日二回づゝ開帳を爲すも、僅に一戸帳を掲ぐるのみなれば、本尊の眞體を見る能はず。寺内には別に納骨堂、毘沙門堂、阿闍梨の池等あり。其の境内七千三百餘坪の地を劃して、今は公園と爲す。

戸隠山

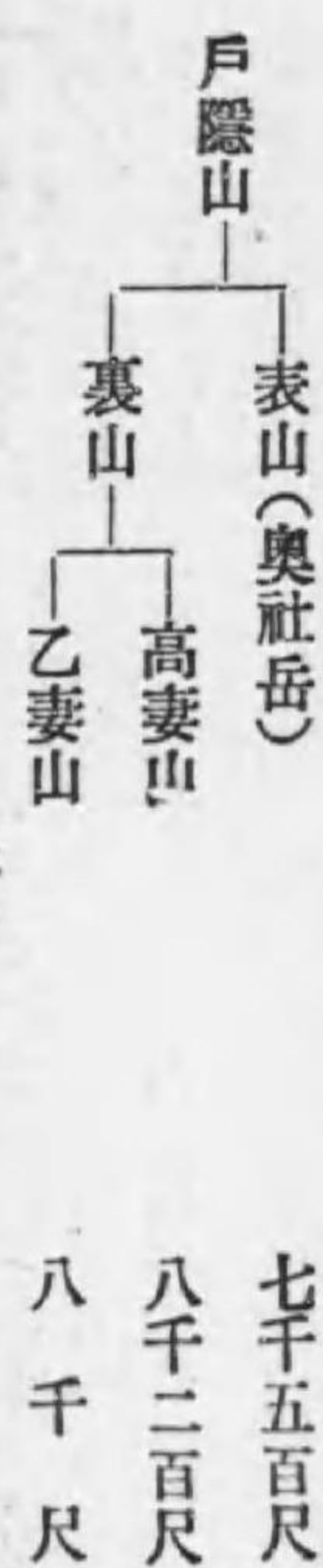
柏原驛から、神社迄五里、其中、中社迄は俵の便がある。長野驛から四里二十町。

柏原驛近傍の名勝（海拔二千二百尺）

野尻湖(東北一里)又俳人一茶の墓がある。

中社から寶光社迄三十町。中社及び寶光社には宿泊所がある。何れも坊である。中社から奥社迄一里この邊は四千尺餘の所で夏猶秋の最中の氣候である。避暑地としては、少し遠すぎるが絶好である。戸隠神社は、天手力雄命を祀り、今國幣小社である。

奥社に參詣してから登山するのである。一口に戸隠と云ふが、三つの峰があるのである。



普通の人には、表山へ登る。裏山も、高妻へ上る人はあるが、乙妻へ登る人極めて稀れである。山の趣味からゆけば、乙妻の峯を究めなければ、眞に戸隠を語ることは出来ない。

中社から、謠曲紅葉狩で有名な鬼女傳説の洞窟を見て、信濃耶馬溪の絶勝を探りつゝ、長野へ出ると面白い。裾花川三里の間の風光は絶佳である。

中野温泉

豊野驛(上野驛より三圓五錢)から東北二里二十町。(俵賃八十錢、馬車賃五十錢自動車賃八十錢)鹽類泉で、リユーマチス、痛風、神経痛に効がある。旅館は中野屋(宿泊料二圓以上)

平穩諸温泉

豊野驛から東北四里乃至六里の間に、湯田中、安代、遊、上林、發喃の五温泉がある。之らは、何れも平穩村にあるので、平穩温泉と云ふてをる。星川の清流を帯にし、山を負ひ一温泉郷をなしてをる。名産は、湯花、花梨、轆轤細工、白箸等、旅館は何れも宿泊料一圓五十錢以上。自炊客が多い。

(イ)湯田中温泉

驛から四里十四町、(俵賃一圓二十錢、馬車賃六十五錢、自働車賃一圓四十錢)無色透明の硫黄泉で、リニューマチス、痛風、神経痛に効がある。旅館、翠屏閣、中屋、萬屋、見崎屋其他。

(ロ)安代温泉

湯田中から十町。(驛から俵賃一圓三十二錢、馬車賃七十錢、自働車賃一圓五十錢)鹽類泉で、効能は湯田中と同じである。海拔は千六百尺で、湯田中より二百尺高い。旅館山口館、萬屋、辨屋其他。

(ハ)澁温泉

安代から五町。(驛から俵賃一圓三十五錢、馬車賃七十錢、自働車賃一圓五十五錢)海拔千六百尺、白微濁の鹽類泉で、効能は安代と同じである。旅館金具屋、つばた屋、山本館ひし屋、原泉館其他。

(ニ)上林温泉

澁から十五町。(驛から俵賃一圓六十五錢、馬車自働車は通じない)鹽類泉で効能は、澁と同じである。海拔二千五百尺、風光雄大である。旅館は塵表閣、上林ホテル、壽屋、關屋。

(ホ)發哺温泉

澁から二里、澁峠の中腹海拔四千二百尺の高所にある。澁から歩かなければならぬ。泉質効能は澁に同じである。旅館は、寧靜館、白銀屋の二軒。

角間温泉

豊野驛の東北四里三十町。澁迄は、俵、馬車自働車の便がある。澁から十二町。無色透明の鹽類泉で、腦病、眼病に効がある。旅館は、越後屋、山本屋、和泉屋。(自炊が主である)

野澤温泉

豊野驛から八里十六町。俵賃三圓五十錢、馬車賃一圓五十二錢。東方犬養山、南は小菅山北は鳥居山を負ひ、西は眺望展けて、風光雄大である。風光は優美で、有名な野澤十二勝がある。

旅館は龜屋、住吉屋、常盤屋、酒屋、港屋等。

山田温泉

豊野驛東北四里。(馬車賃一圓五十錢)又、屋代驛で河東鐵道に乗替へ、須坂驛で下車して三里自働車で四十分で到着する。(一圓三十五錢)

海拔三千尺。白根山の山麓にあり、三方は山、西方展けて、信濃川平野をこえて日本アルプスの連山を眺めらる。温泉の發見せられしは、元治元年である。無色透明の鹽類泉で

温度百四十度、脂肪過多、痔疾、胃腸病に効がある。松川の源泉雷瀧(三百尺)は壯觀である。浴後白根登山を試むるも一大壯舉である。

春の深山の春色、夏の納涼、秋の紅葉狩、茸狩、冬のスキー、狩獵は、とりぐの面白味がある。旅館としては、田中屋旅館が設備もいゝし、低廉でよい。其他湯本館、風景館藤井館、小田館、陽月館等がある。

田中屋の宿泊規定を、

御自炊之部 御室料御一人一泊

一等 金五十錢 二等 金四十錢 三等 金二十七錢

蒲團料 一枚一夜 十錢より 御湯錢 一日 金七錢

以上の外食費は別に申受けます(但し御経費は御同伴者多數程減少致します)

御旅籠之部

御一人一泊 一等 金三圓

二等 金二圓

三等 金一圓五十錢

御晝飯料 一等 金一圓五十錢 二等 金一圓 三等 金七十五錢

一室貸切の際は室の定員迄室料頂戴致します

御自炊にせよ御旅籠によせ御希望により何れでも御賄致します

御便宜御申附下さい御経費は精々勉強御宿を致します

妙高温泉

田口驛（上野驛より三圓三十一錢）の西南三町。（俵賃三十錢）湯は赤倉山から、一里十
六町の間を木樋で引いてくるのである、泉質効能は、赤倉温泉と同じである。

温泉から一里で、風光明媚の野尻湖がある。將來避暑地として、別荘が建てられるであ
らう。旅館加島屋、石田屋、村田屋其他、宿泊料一圓五十錢以上。

赤倉温泉

田口驛の西方一里二十七町。（自働車賃上り一圓八十錢、下り一圓五十錢、俵賃上り一圓
三十錢、下り七十錢）妙高山麓にあり、海拔二千五百尺。最近スキーの練習場として著名
である。温泉から妙高山頂迄三里、浴後の散歩には、適當である。（壯年者には）名産は、
山母細工、葛粉蕎麥粉。

弱鹽類泉で、筋及び關節リウマチス、腺病、脊髓勞、婦人生殖器慢性諸病によい。又内
用すれば、輕症胃カタル、下痢催進、腸カタルに効がある。泉源は温泉から五十二町、海
抜五千尺の溪谷から湧出してる。旅館は香雲閣、香岳樓、高田屋等

關 温 泉

關山驛より一里二十三町、（駄馬賃一圓）東方は越後平野に向つて展かれてゐるが、三方
は山。盛夏八十度に上ることは稀れである。含鐵鹽類泉で、胃腸病、呼吸器病、子宮病、
皮膚病に効がある。旅館は、笹屋、朝日屋、富山屋、中村屋、柳屋其他。宿泊料は一圓五

十銀以上

燕 温 泉

關山驛から二里十八町（駄馬賃一圓二十錢）關温泉から十八町へだたつてゐる。赤倉へは一里。硫黄泉で、慢性リュウマチス、丹毒、子宮病、脚氣に効がある。旅館は中村館、元湯屋、明治屋、山屋、花屋等、宿泊料一圓五十里以上。

伊豆大島

伊豆大島は、東京の南方七十海里。伊豆の河津と房州洲の崎との中央太平洋上にある。南北四里。東西二里、周廻十里餘、島の最高點は、三原山（海拔二千四百九十尺）である。

大島の嶋と云ふ字は山傍に島よ。

鳥はとんでも山のこゝる

の俗語にあるやうに、三原山（御神火様）の四方に曳いた山裾に、部落があるのである。其部落は、

元村、岡田村、泉津村、野増村、差木村、波浮村

である。こゝに約七千五百の人間が住んでゐる。大島の氣候上の缺點は、風が強いことである。夫れでも東京よりは夏冬共に凌ぎ易い。今の所人情も素朴でよい。一週間滞在してしばし俗塵を離れることは、都人士にとつては必要である。

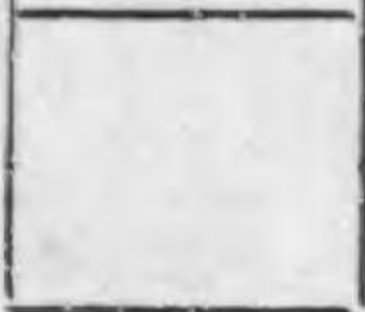
東京の靈岸島を午後七時に出ると翌朝六時三十分岡田村へ着く。元村へ九時十分、野増村へ十時半。波浮港へ十一時半につく。賃金は二圓九十錢である。又伊豆の伊東から隔日に郵便船がくる。（船賃二圓）けれ共、伊東へ出る迄が容易ぢやない。

榕油は有名である。

大正十四年五月廿七日印刷
大正十四年六月二一日發行

定價貳圓參拾錢

著者印



著者 橫井春野

東京市神田區美土代町二の一

發行者 中村德二郎

東京市芝區田村町一八

印刷者 野村音吉

發行所

東京市神田區美土代町二の一
振替東京二五四〇〇

白揚社

| 書名 | 著者 | 型 | 入箱判 | 數頁 | 價定 | 料送 | 摘要 |
|-------------------|---|---|-------|-------|-------|---|---|
| 松川二郎氏著 本位 温泉案内 | 醫學博士長尾美知氏著 實際と 乳のみ兒を健かに育てる爲に (お乳の出るやうに) | 醫學博士長尾美知氏著 實際と 乳のみ兒の病と其手当 (胃腸を強くする爲に) | 入箱判六四 | 620 | 2.300 | .170 | 温泉の實際を紹介せんとして生れたもので、日本二百有餘の温泉の特長は勿論、交通旅費滞在費效果風景附近名勝傳説分拆表設備旅館等綿密に説き、尙缺陷を示したのは本書獨特。 |
| 入箱判六四 | 入箱判六四 | 入箱判六三 | 230 | 200 | 1.800 | .150 | 種々な乳兒病の特徴を明細に説き、殊に流行病傳染病に至つては豫防法初期の徴候等、委しく説いて乳兒に誤りなきを期してゐる。罹病の場合の手當も一々詳説した。 |
| 入箱判六四 | 入箱判六四 | 入箱判六三 | 500 | 2.300 | .170 | 日本の山岳百有餘を紹介したもので、其の詳細な案内記と、趣味に富める歴史の記述とは、獨りにして一讀、各その山を踏破したる如き境地に接する事が出来る實に無二の山岳案内である。 | |
| 横井春野氏著 本日 登山案内 | | | | | | | |

532

147

終